

授業における音楽的な語彙に関する研究 (1) －日本の楽器の聴取を通して－

福井 昭 史*

(平成9年3月14日受理)

A study of student's vocabulary for learn music (1) - by listening to Japanese traditional music -

Akifumi FUKUI*

(Received March 14, 1997)

1 はじめに

鑑賞教育の目的は音楽的な感受の能力の育成にあり、感受の対象として、曲想と音楽の諸要素の働き及びこれらの関わりがあげられる。

日本の伝統音楽には独特の表現方法があり、西洋音楽と異なる点が多いことも事実であるが、音楽である以上、曲想や要素の感受については西洋音楽と同様の活動が可能であると言える。すなわち、これらを具体化した、楽曲の気分や雰囲気、リズムやテンポの特徴、旋律や音の重なりの特徴、主題の反復・変化・対照による楽曲の構成、声や楽器の音色及びその組合せによる響きや効果などを感じ取る活動が可能ということである。それにもかかわらず、日本の音楽を教材とした鑑賞の授業では音楽的な感受よりも知識の理解が優先される傾向があるのも事実である。

その原因の一つに、音楽の要素の働きが西洋音楽と日本の音楽とでは異なる点もあり、日頃西洋音楽に慣れ親しんでいる音楽教師にとって、日本の音楽における聴取のポイントを絞り込むことが難しいという実状があげられる。

また、評価に基づく学習の成立の視点に立つと、授業での子供の聴取結果をいかに教師が把握するかが問題となる。すなわち、子供と教師、または子供同士が聴取結果をコミュニケーションする手段とその活用が課題となり、日本の音楽の学習では、この点に大きな問題があると考えられる。

そこで本論では、コミュニケーション成立のための重要な要素である日本の伝統音楽に関する児童・生徒の語彙について研究を計画した。今回は、音楽の要素のうち楽器の音色及び表現の感受に焦点を絞って、子供と教師のコミュニケーションの実態を考察する。

2 聴取の活動を主とした鑑賞の授業

音楽鑑賞の授業では、子供が聴取によって音楽から何かを発見することに重点を置く活

*長崎大学教育学部音楽科教室

動と、教師の説明によって子供が音楽に興味や関心を持ち、知識を獲得することに重点を置く活動とにその活動を大別することができ、音楽的な感性の育成を目指す現代の音楽科教育では、前者が重視されている。

ところが、前者の活動では、子供の聴取結果を教師が把握する必要がある、指導技術としてのコミュニケーションの手段の拡大が重要な課題となる。

例えば、子供の発達段階や楽曲の特質によっては、必ずしも言語によるコミュニケーションが有効な手段とは限らず、そのような場合には、音楽に合わせて身体反応をしたり、情景を想像し、それに基づく絵画制作や物語作りをしたりするなど、さまざまな活動を工夫して授業が行われる。

「クラリネットポルカ」(チェコ民謡)を教材とした授業で、独奏楽器であるクラリネットが主旋律を演奏している部分を聴き分ける目標の活動の場合に、クラリネットの部分では頭の上に手を載せる身体反応をさせるなどの活動はその一例である。小学校第4学年で実施したこの活動例¹⁾では、曲の冒頭部分の聴取ではほぼ全員の児童が適切な反応を行うことができた。

なお、これと同様の実践記録は、各種の楽曲による事例が音楽教育研究雑誌等²⁾で多数紹介されている。

3 日本の伝統音楽の授業記録

本項では、雅楽「越天楽」を教材とし、中学校第1学年を対象に実践した授業の記録³⁾を紹介する。ここで提示する活動は、楽曲の冒頭部分を聴き、音色や奏法を感じ取ることによって、演奏に用いられている楽器の種類や形状を想像することを目標とした、生徒の聴取とそれに基づく話合いを主とする授業の一場面で、言語によるコミュニケーションを手段として学習を展開している。

授業①と授業②の二つの事例における聴取後の話合いの要旨を示し、その分析から生徒の感受とコミュニケーションの成立の実態について考察する。

(1) 授業①での話合いの過程

授業①の進行過程に添って、生徒の発言(「 」)と教師の発問(……?)とを示す。

なお、A～Oの記号は、生徒の発言順に通して付したもので、複数の発言を行った者もいる。

〔1回目の聴取後の話合い〕

A 「ツヅミ(鼓)」, 鼓はどんな音でしたか?, 「?」, 小さい太鼓と違いますか? 「違う, 同じかもしれない。」,

もう一つは? 「尺八」, 尺八はどんな音でしたか? 「パワーっていう音」

B 「コト(箏)」, 箏はどういう音でしたか? 「ピンピン」

C 「大きな太鼓」, 大きな太鼓はどんな音でしたか? 「ボン」

D 「尺八より少し高い音が聴こえた。パワーって引き伸ばす音よりビーンていう音。」

E 「楽器は分からないけれど洋楽の楽器で言えば、ピッコロみたいな音。」

F 「三味線の音」, 三味線はどんな音でしたか? 「シャンシャンシャン」

G 「楽器は分からないけれど、金属音みたいなキーンという音。」, それは長い音ですか? 「はい」, 今までに出て来たものにあてはめるとしたら、どれと似ていますか? 「別の

もの」

H「ビーンという高い音は、ピッコロの音に近いと思う。日本の曲のような感じがしたので、言葉に表せなかった。ビーンという音は、ピッコロと同じかもしれない。」

〔2回目の聴取後の話合い〕

I「チンという短い音がした。」

「キーンとビーンとは違うもの。」

J「名前は分からないけれど横笛みたいなもの。」、ピッコロとは違いますか？「同じだけど、横笛だろうと思う。」

K「時々3回ずつポンポンポンという音がした。」、今までのとは違いますか？「違う」

L「三味線みたいな感じ、うまく言えないけれど、琵琶っぽい。」、音で言うとどんな感じ？「表し難い」

〔映像の視聴で確認〕

笙を視聴して、キーンやビーンの楽器ですか？「ちょっと違う」

箏を視聴して、尺八と答えた者、「そのことだと思う」

キーンやビーンの楽器ですか？「ちょっと違う」

龍笛を視聴して、ピッコロと答えた者、「そうです」

キーンやビーンの楽器ですか？「ちょっと違う」

琵琶を視聴して、

箏を視聴して、シャンシャンシャンと答えた者、「そうです」

3回ポンポンポンと答えた者、「そうです」 以下省略

(2) 授業②での話合いの過程

授業②の進行過程に添って、生徒の発言（「 」）と教師の発問（……？）とを示す。

〔1回目の聴取後の話合い〕

M「コト（箏）、太鼓が二つ」、（太鼓について）それはどのように違っていましたか？

「一つは小太鼓のような音、もう一つはツヅミのよう」

N「笛が二種類」、どのように違っていましたか？「高い音と濁った音の二つ」

〔2回目の聴取後の話合い〕

O「太鼓は二種類あったが、一つはテンポが加速するもの、もう一つは音が大きくて低いもの。鼓は速いテンポで叩けないし、大きくて低い音ではないので、鼓ではなく日本の太鼓のようなものだと思う。」 以下略

(3) 生徒の発言の分析

授業での生徒の発言内容を、管、弦、打の各楽器群ごとに分類し、その内容を要約した。さらに、それぞれの発言が何れの楽器を想定したものであるかを推測し、発言内容から生徒の聴取の実態を分析したものが次の各表である。

授業①の管楽器についての分析

生徒の発言	分析
〔1回目の聴取後の話合い〕 A 尺八、ボワーツ	○この段階では、Aがどの楽器を示しているか不明である。

<p>D 尺八より少し高い音, ポワーッよりビーン</p> <p>E ピッコロみたいな音</p> <p>G 金属音みたいな長い音, キーン (今までのものと別)</p> <p>H ピッコロに近い高い音, ビーン (日本の曲のような感じがしたので, 言葉に表せなかった。)</p> <p>[2回目の聴取後の話合い]</p> <p>I キーンとビーンとは違うもの。</p> <p>J 横笛だろうと思う。 [映像の視聴で確認]</p> <p>笙を視聴して ○キーンやビーン? →「ちょっと違う」</p> <p>箏を視聴して ○尺八と答えた者 →「そのことだと思う」 ○キーンやビーン? →「ちょっと違う」</p> <p>龍笛を視聴して ○ピッコロと答えた者 →「そうです」 ○キーンやビーン? →「ちょっと違う」</p>	<p>○尺八の音色と音域のイメージから, 尺八以外の楽器であろうと考えていることが予想される。</p> <p>○龍笛を指していることが予想される。</p> <p>○笙を指していることが予想される。従って, ポワーッとビーンは龍笛か箏の音をイメージしているであろう。</p> <p>○龍笛が予想される。</p> <p>○日本の楽器についての知識がないため, 答えられないことがわかる。</p> <p>○依然として, 笙と箏に苦慮している。</p> <p>○龍笛については, ほぼ共通理解が図られている。</p> <p>○何れの視聴においても, 擬音のキーンやビーンで表した楽器であることを否定している者がおり, 生徒によって楽器の音色を擬音で表す際のイメージが異なることがわかる。</p>
---	---

授業①の弦楽器についての分析

生徒の発言	分析
<p>[1回目の聴取後の話合い]</p> <p>B コト(箏), ピンピン</p> <p>F 三味線, シャンシャンシャン</p> <p>[2回目の聴取後の話合い]</p> <p>K 今までとは違う, 時々3回ずつポンポン ンという音</p> <p>L 三味線みたい, 琵琶か? 音で表し難い</p> <p>[映像の視聴で確認]</p> <p>箏を視聴して ○シャンシャンシャン? →「そうです」 ○3回ずつポンポン? →「そうです」</p>	<p>○Bが示した楽器は箏に間違いないと考えられるが, Fの三味線については, 箏か琵琶の何れか不明であるが, シャンシャンシャンと三回繰り返されていることから, 箏の可能性が高いと言えよう。</p> <p>○ポンポンポンという擬音から, 打楽器が予想されるが, 弦楽器を指している点に注目する必要がある。</p> <p>○琵琶を生徒にとってより身近な楽器である三味線に例えていることがわかる。</p> <p>○箏の音色が三味線に似ていると感じている。</p> <p>○FとLの両者とも, 弦楽器の音色を身近な楽器である三味線に例えていることがわかる。 また, 三つの音からなる音型を擬音で表している点が注目される。</p>

授業①の打楽器についての分析

生徒の発言	分析
<p>[1回目の聴取後の話合い]</p> <p>A ツツミ(鼓)?,</p>	<p>○鞆鼓を指しているのは確かであるが, 未知の楽器で</p>

小さい太鼓と違う？、 同じかもしれない。 C 大きな太鼓，ボン [2回目の聴取後の話合い] I チンという短い音	あることから，鼓や小さな太鼓と答えている。 ○太鼓が予想される。 ○鉦鼓が予想される。
--	---

授業②についての分析

生徒の発言	分析
[1回目の聴取後の話合い] N 笛が二種類， 高い音 濁った音 M コト（箏）， M 太鼓が二つ， 一つは小太鼓のような音， 一つはツヅミのよう [2回目の聴取後の話合い] O 太鼓は二種類， 一つはテンポが加速するもの， 一つは音が大きくて低いもの。 (鼓は速いテンポで叩けない，鼓 は大きくて低い音ではない，鼓で はなく日本の太鼓のようなもの)	○高い音は龍笛，濁った音は箏が予想されるが，笙の可能性も否定できない。 ○二つの楽器と答えているが，実際には鞆鼓だけで，打ち方が異なる二つの部分を指していることが読み取れる。 ○鞆鼓と太鼓の特徴をよくとらえた発言である また，鼓についてのある程度の知識があるため，鼓ではないと判断している点が注目される。

(4) 結果の考察

生徒が発表した日本の楽器の名称は，尺八，横笛，三味線，箏，琵琶，鼓，太鼓の七種類で，これらは，小学校での既習教材楽曲「春の海」に用いられる尺八と箏をはじめとしてテレビ放送などで接する機会が多い楽器である。生徒の知識の範囲では，雅楽の楽器名を答えられないことがわかる。

とくに管楽器については，龍笛と音色や音域が類似するピッコロを西洋の楽器であるにもかかわらず例として答えており，日本の楽器より西洋の楽器，とくにオーケストラに用いられる楽器に親しんでいる現状が推測できる。

楽器の音を擬音で表現させた結果を考察すると，それぞれの生徒が示した楽器名や「ポワーツ」，「ビーン」，「キーン」などの共通の擬音による発言であっても，必ずしも同じ楽器の音色をイメージしているとは限らず，教師と生徒，生徒同士のコミュニケーションが成立し難いことがわかる。

また，「ボンボン」は，一般的な擬音の表し方では打楽器がイメージされるが本事例の生徒は弦楽器の箏を指しており，教師は先入観なく生徒の発言を受けとめる必要があると言えよう。

4 楽器の音色の識別調査

前述の実践例のような鑑賞の授業におけるレディネスである生徒の聴取力や楽器に関する知識の実態がどの程度のものであるかを把握するために「楽器の音色の聴取に関する調

査」を実施した。

本論では、調査結果のうち日本の楽器についての部分を主に考察を行った。

(1) 調査の概要

この調査の調査内容は、チェロ、オーボエ、トランペット、ギター、パイプオルガン、尺八、笙、箏（ひちりき）、三味線、琵琶の10種類の楽器の演奏をそれぞれ約30秒聴かせ、以下の二項目について質問紙に記述させた。

①楽器の種類調査

「オーケストラの楽器」「日本の楽器」「その他の楽器」の何れであるかを選択させる。

②楽器の名称調査

楽器名を選択肢の楽器群の中から選び、記述させた。また、回答に対する自信の有無を、自信のあるものには○印、自信のないものには×印を記入させ、どちらでもないものは空欄とさせた。

なお、演奏順と演奏曲目は以下のとおりである。

- | | |
|----------|--------------------------------|
| ①チェロ | 「フーガの技法」から（バッハ作曲） |
| ②オーボエ | 「ヴェニスへの謝肉祭による序奏と変奏」（テオドール・ラリエ） |
| ③琵琶 | 「和歌の吟詠」の前奏部分 |
| ④笙 | 雅楽「越天楽」の笙のパート |
| ⑤ギター | 「粉屋の踊り」から（ファリヤ） |
| ⑥三味線 | 「虫の合方」 |
| ⑦トランペット | 「どれが歌によい日」から（アーン） |
| ⑧尺八 | 「竹籟五章」（諸井誠） |
| ⑨パイプオルガン | 「幻想曲とフーガ ト短調」（バッハ） |
| ⑩箏 | 雅楽「越天楽」の箏のパート |

実施に当たっては、調査の進行を指示したナレーション及び楽器の演奏を合わせて録音したテープ（約8分間のもの）を使用し、音楽の授業担当の教諭に調査を依頼した。

調査対象は、小学校第4学年から中学校第3学年までのそれぞれ2～3クラスとし、長崎大学教育学部附属小学校及び中学校で1997年2月末から3月初旬にかけて実施した。

調査結果は各楽器について項目ごと学年ごとに集計し、それぞれの割合を百分率（％）で表した。（8頁の表及び9、10頁のグラフ①～⑩）

(2) 日本の楽器の聴取状況とその考察

楽器の種類調査では、日本の楽器5種類（グラフ①～⑤）のうち、笙を除いた4種類は、何れも正答が高率を示しており、三味線と琵琶は各学年共90%以上の正答率である。

とくに三味線は、小学生全体で誤答が1名という、ほぼパーフェクトの正答率を示しているのに対し、中学生では学年が進行するに従って僅かながら誤答が見られた。これは、民族音楽の楽器など、多数の楽器を経験した結果の迷いに原因があると考えられる。

笙の正答率が、小学生で8～10%と低率なのが中学生で70～90%と急激に高率に変化しており、これは中1での雅楽「越天楽」の学習が影響していると考えられる。

笙と同じ雅楽の楽器である箏も、同様の傾向が見られる。

楽器の名称調査では、オーケストラやその他の西洋の楽器（グラフ⑪～⑳）では、概ね学年進行に従っての正答率が高まる傾向がある。なお、中1、中2でやや正答率が低下

するのは、多数の楽器を経験した結果の迷いに原因があると考えられる。

日本の楽器（グラフ⑥～⑩）では、尺八が小6で正答率が高い。これは鑑賞教材曲「春の海」で尺八と箏の学習を経験することに原因があると考えられる。

一方、三味線の正答率が小6だけ低いのは、誤答の楽器のうち箏の占める割合が回答全体の43.5%と高率であることから推測すると、箏の学習経験がマイナスに作用していると考えられる。

雅楽で用いられる楽器の笙、箏、琵琶の正答率が、中1から急激に上昇するのは、雅楽「越天楽」の学習が影響していると考えられる。

また、雅楽でしか使われない笙と箏が、中2、中3と次第に正答率を下げているのは注目すべき点である。これに対し琵琶は、中2でさらに正答率を上げており、鑑賞教材曲「ノヴェンバー・ステップス」の独奏楽器としての琵琶の学習の影響であると考えられる。

5 結論

(1) 児童・生徒は日本の楽器の音色や表現の特質を感じ取っている

楽器の種類の識別では、全ての楽器で高い正答率を示しており、とくに日本の音階や独特の奏法（型）が顕著に感じ取れる。尺八、三味線、琵琶の正答率が高いことから、児童・生徒は純粋に音色だけからでなく、その奏法など表現方法をも含めて総合的に楽器の種類を判断していると考えられる。すなわち、児童・生徒には、西洋音楽と日本の音楽の表現の違いを感覚的に感じ取れる能力が備わっていると言えよう。

(2) 楽器の名称は主に音楽の授業を通して知識として獲得される

楽器の名称については、日頃からテレビなどで聴く機会が多く、印象の強い楽器であるギター、パイプオルガン、三味線などが低年齢から正答率が高い。このことから、日常生活の中の音楽経験では、楽器の名称は意識せず、音楽を聞き流しているという実状が推測できる。

一方、授業での学習が調査結果にさまざまな影響を及ぼしていることは注目すべき点で、授業を通して児童・生徒の音楽的な語彙が獲得されていると言える。また、当然のことであるが、授業を通して獲得された楽器の名称と表現に関する知識などは、聴取経験を繰り返さない場合は時間と共に失われることも明らかになった。

(3) コミュニケーションの手段としての音楽的な語彙の意味

雅楽「越天楽」の授業で教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションが必ずしも十分でなかったことと、楽器の聴取の調査結果を勘案すると、音楽科教育における音楽的な語彙の拡大は重要な課題であり、授業の目標の一つであると言える。

また、音楽的な語彙の拡大は、授業におけるコミュニケーションを円滑にし、学習を活性化させる結果にもなると言えよう。

註

- 1) 長崎大学教育学部附属小学校で実践授業研究の研究授業として実施 (H.8.12.11)
- 2) 教育音楽、音楽教育、音楽鑑賞教育等の雑誌に多数の実践例が紹介されている。身体反応を伴う事例は小学校の低・中学年に多い。
- 3) 長崎大学教育学部附属中学校で実践授業研究の研究授業として実施 (H.7.1.24)

『楽器の音色に関する調査』（集計結果、％）

各楽器ごとに ①楽器の種類〔オーケストラの楽器、日本の楽器、その他の楽器〕(左)

②楽器の名称(右)

1 チェロ

(分類) %	楽器の種類				(名称) %	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	86.3	5.5	6.8	1.4	小4	4.1	1.4	11.0	83.5
小5	89.4	1.3	8.0	1.3	小5	9.3	17.3	18.7	54.7
小6	87.4	2.7	9.0	0.9	小6	9.0	12.6	23.4	55.0
中1	92.7	0	7.3	0	中1	3.6	22.0	11.0	63.4
中2	94.9	0	3.8	1.3	中2	1.3	32.1	9.0	57.6
中3	91.7	0	8.3	0	中3	13.9	26.4	8.3	51.4

2 オーボエ

%	楽器の種類				%	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	56.2	4.1	38.3	1.4	小4	0	1.4	5.5	93.1
小5	60.0	6.7	30.7	2.6	小5	1.3	4.0	6.7	88.0
小6	67.6	1.8	29.7	0.9	小6	2.7	5.4	8.1	83.8
中1	89.0	0	9.8	1.2	中1	2.4	4.9	6.1	86.6
中2	85.9	1.3	11.5	1.3	中2	2.6	12.8	3.8	80.8
中3	72.2	1.4	26.4	0	中3	5.6	12.5	11.1	70.8

3 トランペット

%	楽器の種類				%	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	80.8	0	19.2	0	小4	9.6	8.2	9.6	72.6
小5	88.0	0	12.0	0	小5	5.3	17.3	16.0	61.4
小6	94.6	0	5.4	0	小6	16.2	24.3	18.0	41.5
中1	92.7	1.2	6.1	0	中1	14.6	20.8	13.4	51.2
中2	96.1	1.3	1.3	1.3	中2	6.4	33.3	7.7	52.6
中3	90.3	2.8	2.8	0	中3	15.3	25.0	12.5	47.2

4 ギター

%	楽器の種類				%	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	15.1	8.2	76.7	0	小4	56.2	13.7	13.7	16.4
小5	10.7	2.6	86.7	0	小5	37.3	26.7	21.3	14.7
小6	4.5	4.5	90.0	0	小6	46.9	27.0	15.3	10.8
中1	2.4	2.4	95.2	0	中1	58.5	26.8	8.6	6.1
中2	1.3	1.3	94.9	2.5	中2	50.0	37.2	5.1	7.7
中3	11.1	1.4	87.5	0	中3	61.1	26.4	5.6	6.9

5 ハイブオルガン

%	楽器の種類				%	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	37.0	6.8	52.1	4.1	小4	26.0	21.9	20.6	31.5
小5	34.7	1.3	62.7	1.3	小5	28.0	28.0	21.3	22.7
小6	27.9	0	71.2	0.9	小6	38.8	29.7	15.3	16.2
中1	24.4	2.4	73.2	0	中1	53.6	30.5	11.0	4.9
中2	37.2	1.3	60.2	1.3	中2	53.8	28.2	7.7	10.3
中3	29.2	1.4	69.4	0	中3	47.2	33.3	4.2	15.3

6 尺八

%	楽器の種類				%	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	2.7	87.8	6.8	2.7	小4	26.0	4.1	8.2	61.7
小5	1.3	96.0	2.7	0	小5	10.7	17.3	5.3	66.7
小6	2.7	91.0	6.3	0	小6	30.6	21.6	11.7	36.1
中1	4.9	91.5	2.4	1.2	中1	9.8	21.9	13.4	54.9
中2	1.3	97.4	0	1.3	中2	9.0	20.5	5.1	65.4
中3	1.4	94.4	4.2	0	中3	20.9	23.6	8.3	47.2

7 笙

%	楽器の種類				%	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	32.9	8.2	54.8	4.1	小4	1.4	0	4.1	94.5
小5	17.3	12.0	68.0	2.7	小5	0	0	1.3	98.7
小6	12.6	10.8	75.7	0.9	小6	0	3.6	4.5	91.9
中1	4.9	91.5	2.4	1.2	中1	37.8	24.4	15.8	22.0
中2	11.5	73.1	12.8	2.6	中2	17.9	30.8	6.4	44.9
中3	11.1	72.2	16.7	0	中3	29.2	19.4	4.2	47.2

8 箏

%	楽器の種類				%	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	5.5	82.2	8.2	4.1	小4	1.4	2.7	12.3	83.6
小5	2.7	86.6	6.7	4.0	小5	2.7	9.3	6.7	81.3
小6	0	71.2	27.0	1.8	小6	0	3.6	16.2	80.2
中1	1.2	96.4	0	2.4	中1	36.6	24.4	12.2	26.8
中2	1.3	94.8	2.6	1.3	中2	11.5	43.6	7.7	37.2
中3	2.8	95.8	1.4	0	中3	27.8	29.2	1.4	41.6

9 三味線

%	楽器の種類				%	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	0	100.0	0	0	小4	24.7	13.7	4.1	57.5
小5	0	98.7	1.3	0	小5	18.7	21.3	16.0	44.0
小6	0	100.0	0	0	小6	12.6	15.3	9.9	62.2
中1	0	98.8	1.2	0	中1	13.4	26.8	14.7	45.1
中2	1.3	94.8	2.6	1.3	中2	11.5	37.2	9.0	42.3
中3	2.8	93.0	4.2	0	中3	12.5	26.4	8.3	52.8

10 琵琶

%	楽器の種類				%	正答			誤答
	オーケ ストラ	日本	その他	未回答		○	×	×	
小4	1.4	97.2	1.4	0	小4	4.1	5.5	1.4	89.1
小5	0	98.7	0	1.3	小5	8.0	9.3	6.7	76.0
小6	0	96.4	3.6	0	小6	3.6	5.4	4.5	86.5
中1	1.2	98.8	0	0	中1	7.3	20.8	14.6	57.3
中2	0	91.0	7.7	1.3	中2	10.3	25.6	10.3	53.8
中3	0	97.2	2.8	0	中3	6.9	30.6	4.2	58.3



